

インターバンクの声（2015 年 4 月 13 日）

独り勝ちにさえ見えていた米国経済も、2月以降は雇用統計を除いて弱い内容を示す指標が多くなり、4月3日の雇用統計までも雇用者数の伸びが大きく市場予想を下回るに至り、先週初はドル高の修正がいよいよ始まるのではとの雰囲気は漂い始めていた。兎に角、雇用統計発表の前週には、ドル円は極端に弱かった耐久財受注などの発表もあり118円台にまで下げ、雇用統計前に欧米の株価回復などもあってやっと120円台前半まで戻していたところでの雇用統計後の118円台への再下落だったからだ。ドル高期待が完全に消えていた訳ではなかったのに、119円台への回復は想定内にも感じられたが、雇用統計の前週に付けていた120円台のドル高値を超えるまでの予想をした向きは極めて少なかったはずだ。120円40銭台に上昇するまでの119円台後半や、2度程付けていた120円台から119円台へ戻す過程でドル売りに傾けてしまった人も多かったようだ。今週も前週と同様、各国経済指標の内容に目を凝らすことになりそうだが、米地区連銀総裁の講演発言やG20などにも一応注意しておく必要があるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。